

これからの病院

今年、下呂市立金山病院が新築開院を迎えます。そこでこれからの病院の在り方についてのお話です。

◎地域を支える病院機能

新病院は5年前から下呂市医療フォーラム、ワークショップなどで得られた地域の皆さんの考えをもとに入院治療を行う病院機能、診療所的機能を併せ持つ外来診療機能、検診機能を持った病院として建設されています。これらは地域の維持を保健、医療、福祉の面で支えるという病院の使命を果たすために欠くことのできないものです。

◎診療規模

診療規模は現在と同じで内科系、外科系の総合診療を主体としています。小児科、歯科口腔外科、耳鼻科も今まで通りです。救急医療、人工透析の機能は拡充されます。これらは地域を維持していくために欠くことのできない機能であるとともに、医師をはじめとするマンパワーの確保の限界を考慮しての規模となっています。

◎現在の病院との違い

現在の病院との大きな違いは老朽化した施設の一新と、診療に必要な基準を満たした面積を有するということです。これは受診される皆さんによりよい受診環境を提供するとともに医師を招聘するうえでも十分とは言えませんが必要な要件です。

◎病院の運営費

病院は皆さんの受診料によって運営されています。公立病院は不採算の部門を抱えていることもあり公費（国の税金）が投入されています。市立病院も運営費の一部を国費で賄っています。建設費についても皆さんからいただいた受診料が当てられます。市立病院の受診者は約80%が60歳以上で、60歳以上の人口はこの先10年大きな変化はありません。診療圏の皆さんが市立病院を受診していただくことが病院維持につながります。

◎自治体の責任

地方の公立病院の多くは昭和30年代、誰でも、いつでも、どこでも保険で医療が受けられるという国民皆保険制度を実行するために開設されてきました。その運営には多額の国費が投入され地域の医療が維持されてきました。このため、地方の公立病院は立地する市町村ばかりでなく近隣の診療圏に対しても適切な医療を提供する責任があります。

◎二つの病院

下呂市に二つの病院があると考えるのでなく一つの病院機能が二つに分かれて機能を分担していると考えるべきです。都市と違って広範な居住地域を抱えた下呂市では病院一か所ではその機能を果たせません。また市立病院の現在の機能の維持は県立下呂温泉病院の脳神経外科や循環器内科といった高次専門機能に依存しています。さらに下呂病院がその機能を発揮するためには市立病院のバックアップが必要です。皆さんが両病院を有効に利用されることを願っています。

下呂市立金山病院 院長 古田智彦